

デーリー東北
2026年(令和8年)5月1日(金曜日) (17)

八工大に人工芝サッカー場



八戸工業大の敷地内に整備された人工芝サッカー場「ブルーフィールド」は30日、八戸市妙

公式戦対応、LED照明も

八戸工業大は、八戸市 同大サッカー部は30日 妙の敷地内に人工芝のサッカー場を整備した。広大な海や空を望む八戸をイメージし、愛称は「Blue Field」(ブルーフィールド)に決定。同大、工大一高、工大二高の各サッカー部の練習拠点となるほか、地域の各種大会開催にも対応する。

早朝、ブルーフィールドで初練習を実施。学生らは懸命にボールを追いつながら、新たな拠点の誕生を喜んだ。

主将の杉村天菜さん(21)は「使いやすい、練習のモチベーションがさらに上がった」と笑みを浮かべる。チームは今季から東北大学リーグ2部に登録し、5月4日にはこけら落としとして弘前大との公式戦を予定。「1年生が中心の若いチームだが、何としても勝利をつかみたい」と力を込めた。

ブルーフィールドは、同大の正門近くにあった工大一高のグラウンドをリニューアル。公式戦に対応したサッカーコート1面を整備し、小学生の大会でも利用できるような2面分の競技ラインをコート内に埋め込んだ。

LED照明も46台設置し、今後は地元クラブ向けに夜間の貸し出しも行う予定だ。

本多進司監督は「八戸に新たなサッカー拠点ができた。多くの人に親しまれる場所になってほしい」と願った。

(小嶋嘉文)

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。